

周南市水素利活用協議会（第4回）議事要旨

（開催要領）

日 時：平成26年11月12日（水曜日）13時30分～15時30分

場 所：周南市徳山保健センター1階健診ホール

出席者：

【会長】

稲葉 和也 山口大学 大学院 技術経営研究科 教授

【副会長】

牧野 俊昭 徳山工業高等専門学校 教授

【委員等】

今井 博文 出光興産株式会社徳山事業所 管理課長

辻 克実 東ソー株式会社南陽事業所 参事

大森 一幸 株式会社トクヤマ徳山製造所 主席

寺山 統 日新製鋼株式会社周南製鋼所 総務チームリーダー

倉林 靖夫 株式会社三井物産戦略研究所 グリーンイノベーション室
長補佐

五十嵐 剛史 株式会社三井物産 関西支社業務部事業開発室長

塚田 聡 株式会社三井物産 中国エネルギー室長

吉田 憲司 株式会社三井物産 中国支社業務室次長

八隅 定夫 岩谷産業株式会社 シニアマネージャー

廣瀬 順之 岩谷産業株式会社 マネージャー

山口 剛 岩谷産業株式会社 担当

佐伯 雄大 岩谷産業株式会社 担当

小久保 章宏 岩谷産業株式会社 山口支店長

末永 幸男 山口合同ガス株式会社 課長

長嶺 潤二 山口合同ガス株式会社徳山支店 課長

小林 裕幸 山口県石油商業組合周南連合支部 支部長

杉本 慎一 高山石油ガス株式会社 代表取締役社長

南 陽一 高山石油ガス株式会社 直売部長

兼石 隆規 防長交通株式会社 課長

吉川 浩二 株式会社豊田自動織機 グループマネージャ

鈴木 宏紀 株式会社豊田自動織機 主担当員

渡瀬 修 トヨタ自動車株式会社 地域統括部長

直井 和敏 トヨタ自動車株式会社 主幹

江藤 めぐみ 本田技研工業株式会社

水戸部 典朗 マツダ株式会社 技術研究所 研究長

森本 賢治 マツダ株式会社 技術研究所 主幹研究員

井上 隆	東芝燃料電池システム株式会社 特命担当部長
水野 良治	株式会社大林組 副部長
井原 俊一	株式会社大林組大阪本店 副部長
山本 俊典	新南陽商工会議所 総務部長
佐伯 正文	徳山商工会議所 中小企業相談所長
有吉 一男	周南地場産業振興センター 専務理事
原田 伸夫	周南地場産業振興センター 主査
田中 義啓	櫛浜地区自治会連合会 会長
濱口 紀昭	経済産業省中国経済産業局 新エネルギー対策室 総括係長
松田 邦夫	山口県産業戦略部 審議監
高田 政夫	山口県産業戦略部 主幹
新見 輝夫	山口県産業戦略部 主査
大田 淳夫	山口県商工労働部 新産業振興課 主幹
磯部 佳成	山口県産業技術センター グループリーダー
濱田 敏裕	山口県産業技術センター イノベーション推進センター
福本 栄治	周南市企画総務部庁舎建設課 課長
平野 貴志	周南市環境生活部環境政策課 主査
土谷 哲司	周南市環境生活部環境政策課 主査
中村 研二	周南市経済産業部 部長
弘中 基之	周南市経済産業部 次長 兼 商工振興課長
徳原 克志	周南市商工振興課 主幹 兼 企業活動戦略室長
宮崎 正臣	周南市商工振興課 企業活動戦略室長補佐
花野 勝則	周南市商工振興課 企業活動戦略室 主査
池田 賀津彦	公益社団法人中国地方総合研究センター 常務理事
渡里 司	公益社団法人中国地方総合研究センター 主任研究員

(議事次第)

1. 開会
2. あいさつ
3. 自己紹介
4. 報告事項
 - (1) 周南水素ステーションのオープンについて (岩谷産業株式会社)
 - (2) 関西空港プロジェクトについて (株式会社三井物産)
5. 協議事項
 - (1) 周南市水素利活用計画 (案) について
 - (2) 〔仮称〕周南市水素学習室の整備について
 - (3) 今後のスケジュールについて
 - ◇12月17日(水) 13:30～ 水素サプライチェーンWG (非公開)
 - ◇3月18日(水) 13:30～ 第5回周南市水素利活用協議会 (公開)

(4) その他

6. 閉会

(配付資料)

資料1：周南市水素利活用計画（素案）【中間報告】

資料2：各WGでの議事報告

資料3：〔仮称〕周南市水素学習室の整備に向けて

(概要)

○開会挨拶

(会長) みなさん、こんにちは。会長の稲葉でございます。本日は、お忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございます。当協議会は、3年間やっておりまして、今年4月に「周南市水素利活用構想」をつくりまして、本日は皆様のお手元でございます「利活用計画」をワーキングしていこうと思います。

国は、4月に閣議決定で水素をすすめていく、6月にロードマップをつくりまして、先日、エネルギーの次長が燃料電池に関しまして、周南市の構想につきまして、数値目標が入っています。そのことに非常にびっくりされておりまして、ロードマップもなかなか思うように数値目標が入れられないと。去年この会議で我々が自信を持って数値目標を出したのですが、企業関係者の方からこれは少なすぎるという話になりまして、できるだけ具体的に、現実的にこの計画をまとめていきたいと考えております。

周南市というのは、人口の規模や、離島もありまして、都市部もあって、山もあって、よく、日本の大体100分の1のスケールだといわれます。ですから、この100分の1のスケールというところで、もし、ここで現実的に水素を活用した運用・利用、エネルギーも含めてうまく回れば、これは全国展開できる可能性があるという地区でございます。ですから、本日の計画案、WGがいかに関現的に可能かというのをまとめていただきまして、今日こちらで内容を紹介していきます。

せっかく今日はいろんなところから、いろんな分野・企業の方にお集まりいただいておりますので、是非ご意見を申しただいて、現実的に水素を活用していくという周南市に、計画を立てて推進していきたい。現実的というのは、抽象的ではなくて、これならやっていけるという案を作っていきたいと強く願っておりますので、よろしく願いいたします。今日は、話す内容がたくさんありまして、これは皆さんにお話しする場合もあるんですが、できるだけ皆さんの意見をいただく時間を取りたいと思っておりますので、是非今日お越しいただいたご参加の皆さんは、なにか一言言って帰っていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○協議事項・質疑応答

(会長) それでは、ただ今より協議に入りたいと思います。最初に注意点を申し上げますので、留意していただければと思います。まず、発言される際には、ご所属とお名前をおっしゃってください。

また、この会議は、当協議会設置要綱第7条によりまして公開となっておりますので、よろしくお願いいたします。

(1)周南市水素利活用計画（案）について

(会長) それでは、1番目としまして、周南市水素利活用計画（案）につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

事務局より周南市水素利活用計画（案）について説明

<質疑応答>

(会長) では、質疑に入っていきたいと思います。ただ今よりご意見を伺います。

(委員) 2点あります。1つは単なる足し算の話なんですけど、利活用計画の5ページ、段階別の目標指標があるんですけども、これを足し算して4ページの数値に合わないのには何か意味はあるのでしょうか。

(事務局) 各年度の台数としてきりの良い数字で切っております。これについては、30ページの資料編、解説3を見てください。目標台数の表で、下一桁のところを切り上げております。

(委員) もう1つですけれども、6ページの表記のところで、最初は水素ステーションを核としたモデルということだったのが、またちょっと違うモデルの名称になっておりますが、私の理解ですと、このようなモデルは以前、県でもお考えになっていたように思いますが、県の考えと整合性はとれているのでしょうか。

(会長) 周南市、県の方がいかがでしょうか。

(事務局) 周南市の方から説明させていただきます。県も積極的に、「水素先進県やまぐち」ということで水素利活用を進めていらっしゃいますが、まずもって周南市が、県内における水素利活用のモデルになるものと認識しているところです。県におかれては、11月17日に県内での水素利活用協議会を立ち上げられる予定ということですので、その折に、本市の取り組みについてご説明する予定となっております。当然のことながら、県と連携を図りながら、この計画に取り組んでいきたいと思っております。

(会長) 県はよろしいですか。

(委員) 周南市さんの方からありましたけれども、来週、17日月曜日に、県全体的に広く水素の利活用を進めようということで、連携協議会を設置することにしており、昨日、記者発表をしております。それと、山口県といたしましては、周南市さんの取り組みが県内では一番進んでおりますので、これを地域のモデルといたしまして、ただ同じ形ではなくて、それぞれの地域の特性を生かしながら展開をしていきたいと思っております。周南市さんの取り組みは、県内では最初の先進的な取り組みとなりますので、他市の皆さんも必ず賛同されると考えております。今から具体的な計画等を進められていくと思っておりますので、その辺にあたっては、県の企画担当の方とも調整をさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

(会長) はい、どうもありがとうございました。それでは他の方がいかがでしょうか。

(委員) 意見ですが、30ページの下に普及シナリオというのがあります。青字が車両でオレンジがエネファーム、燃料電池ということですが、車両の方で考えますと、こう右上がりの直線的に上がるのではなくて、通常であれば尻上がりに上がっていくというのが現実的だと思いますけれども。直線的な普及台数というのはちょっと現実的ではないのではないかと思います。現実的なグラフをなんらかのロジックでもってこられたほうがよろしいのではないかと思います。

(事務局) 指数関数的なグラフとなるよう再度検討します。

(会長) 他にありますか。

(委員) 水素利活用についてお伺いしたいのですが、9ページの資料に再生可能エネルギーからの電力とありますが、再生可能エネルギーから水素を作るというのは、もう少し先の話かなと思うんですが、この計画の中では一応、Step 1、2の期間で実証実験の実施を検討することになっておりますが、具体的にどのような内容を想定されているのでしょうか。

(会長) いかがでしょうか。

(事務局) お答えいたします。予定しております水素ステーションのオープンする近くに、東部浄化センターの下水処理場がありますが、ここから出るメタンガスから水素を取り出すといった実証研究も検討していきたいと考えています。

(会長) ありがとうございます。よろしいですか。

(委員) はい。

(会長) この地区は電解ソーダを製造する際に非常に純度の高い水素が副生されていて、製品加工にも使われているのですが、ものすごい生産量がありまして、コンビナートそれ自体が、石油もそうですが、そのポテンシャルは非常に高いということです。他いかがでしょうか。

(委員) 1つは、私は周南市民ではありませんけれども、市民の視点でこうしたらいいなというご意見と、もう1つは質問ですけれども、5ページにあります、水素エネルギー利活用に向けた基本目標と基本政策という基本目標3点示されておられます。これらが3ページにあります、「まちづくり総合計画」にどういうふうに反映されるのか。「少子化対策」だとか「安心安全」とかございますけれども、どういうふうに役立つんだよというのがより明確に示されていた方が、この水素利活用に対する理解が得られやすいのではないかとというのが意見です。

(会長) 1番重要な指摘なんですけれども、いかがですか。

(事務局) ご指摘、大変貴重なご意見ありがとうございます。現在、「まちづくり総合計画」の見直しを行っております。現時点では、「低炭素社会の実現等」という目標を実現する取組の一つとして掲げていけたらというふうに思っているところであります。

(委員) ありがとうございます。もう1つですけれども、今度は20ページですけれども、水素関連産業等に関する人材育成・事業所支援の充実のところですが、建設工事を行う業者としての視点ですが、水素エネルギー専門家育成の実施とありますが、この専門家育成というのはどのような専門家をイメージされているのでしょうか。というのも、周南市には、すでに水素配管等の工事に精通する技術者の方がたくさんいらっしゃるのではないかと考えていますし、水素の専門家の養成を全国展開していくモデルになれば、周南市は、水素社会が広がっていく中で非常に価値の高いまちになるのではないかなと思いますので。天然ガスとかガソリンは、取扱いが専門家しかできないので、水素の取扱いについても何らかの専門性というものが必要なのではないかと考えての質問です。

(会長) 非常に重要な質問ですけれども、これはどなたに。コンビナート企業は多くの水素を使われているので、専門家は結構いると思うんですが、どなたか。

(委員) 今のご質問にありました、既存の水素を扱う技術者の情報提供については、

できるだけ協力させていただきたいと思います。ただ、水素ステーションで扱う水素は超高压の水素であるということなので、これまで石油化学会社が扱っているレベルをかなり超えたレベルの技術であると認識しておりますので、直接的にはすぐにはご協力はできないかもしれませんが、産業振興の協力という部分では協力させていただきたいと思います。

(会長) はい、ありがとうございます。ちょっと余談ですが、市庁舎に水素の発電施設を作るということで、どう作るのかというのが意外と頭の痛い問題で、場所にしろ、どんな設計にするかとか、意外と見えないところがありまして。様々な知見でやっても、水素は扱いにくい物質ですから、そういったところが実はあるんですね。また何かありましたらおっしゃってください。他いかがですか。

(事務局) 基本方向のところ「水素関連機器の操作等の体験メニュー」と書いておりますように、水素関連機器の設計とか利活用とかで、どのようなところが関連して、どのような規制が絡んでいるかというような、水素エネルギーに付随する様々な知見を習得するカリキュラム等を作成していければということで、この水素エネルギー専門家のところを書いています。もう1つは、資格取得講座の開設でございますが、例えば高压ガス保安法とかそういった法関連のことでの指導といったことを考えています。

(会長) 他にはございませんか。是非、せっかく来られているので。はい、よろしく願いいたします。

(委員) わかりにくいので教えて下さい。19ページのイラストですが、左側に水素ガスプラントなどがあって、カードルで運んで、④は純水素型エネファームのイメージでしょうか。

(事務局) ④は既存の都市ガスを使った「エネファーム」です。少しわかりにくい表となっていましたので訂正いたします。

(委員) はい。私どもはプロパンガスを扱っておりまして、プロパンガスのエネファームを売っているものなのですが、この表を見ましてプロパンガスは除外されたかなと思ったんですが、どうでしょうか。

(事務局) 申し訳ございません。記入漏れでございますので追加いたします。

(委員) ありがとうございます。

(会長) はい、よろしいでしょうか。プロパンも入ります。他にいかがでしょうか。目標が小さいというのでもいいです。前回そういうのが結構多かったのも、もっとこういうのはどうかですとか、何でも結構です。

(委員) 今、目標が小さいということで例えばというので感じておりますのは、30ページの表ですが、基本指標に伴う水素需要量ということで、例えば32年には、純水素換算で車で69万 Nm³、エネファームで79万 Nm³ ということですが、併せて年間150万 Nm³ 程度の水素需要量ということですが、例えば、製油工場であれば150万 Nm³ というと、使用料としましては1日に出てくる使用料のさらに何分の1です。そういう量でございます。そうすると、この辺のいわゆる補助金なしで経済的に成り立たそうとした場合、あまりにも少ないということが正直な感想です。そこが1番大きな課題になると思いますので、例えば山口県全体に範囲を広げるなどしていかないと、経済的には非常に厳しいと思います。例えばガスタービン回して発電に持っていくとか、そういったことも検討していく必要があると考えます。

(会長) いかがでしょうか。

(事務局) この計画案では、西日本における水素供給拠点として広域を対象とした水素供給体制を確立、と挙げておりますので、山口県内とか周南市内だけにこだわることもなく、供給できるエリアを西日本全体をにらんで需要量を算出していくのも一つの方法だと思っています。

(会長) はい、今のご指摘はごもっともで、別に周南市で全部使うというわけではないんですよ。今年の夏、九州地域戦略会議で福岡の小川知事が唱えられました。福岡県は非常に活発で、九州の他の知事の皆さんも進めていきたいと。その時、やっぱり水素はどこから供給するんだ、どこから手に入れるんだということ、やはりこちら周南地区というのは非常に地の利もありますし、量も十分です。まあ、広がる可能性はあるし、そうしていきたいなと考えております。他によろしいでしょうか。

(委員) 使用量を増やすとなると、水素発電ではないかと思うんですが、水素発電について何か具体的にお考えがあるのかお伺いできればと思います。

(会長) いかがですか。

(事務局) まだアイデア段階です。水素サプライチェーンのワーキンググループで具体的な話ができればと思っております。

(会長) 国のロードマップでは、水素発電は、かなり後の方なんです。やはり、コストも考えるとそうなのでしょう。最初は水素ステーションを核に、運輸、自動車をまず固めて次の段階になっています。ですから、ちょっと先になるのかなという感じです。ただし、おっしゃるように水素発電をやれたらいいですね。

(委員) 鼓海地区も櫛ヶ浜地区の中に入りますので、ステーションの着工が迫っているということで、少し具体的な説明をしなければいけないと思うんですが。当初、ステーション建設の説明会を櫛ヶ浜で行った時、安全性についてたくさん質問が出て、その不安を解消するまでに約5回くらい何度も議題を変えてやりました。今では地元は一応受け入れるという形にはしておりますが、そのときに話の出た圧力ですね。精製時の圧力が70メガということでしたが、よくよく話を聞きますと、35メガという話もあり、また、40メガで配管をするという話もあったり。一方では、セルフでやるということまで考えておられると聞きますと、この辺について現時点で分かっている、圧力に関することやステーション運営の考え方について簡単にご説明いただければと思います。

(会長) はい、どなたが答えられますか。どなたでもいいですよ。

(委員) 詳しくは言えませんが、基本的には車の受け入れが70メガで進んでいます。周南ではフォークリフトの話もありますので35メガというのも並列で考えているというふうに聞いています。

(会長) よろしいですか。何か聞きたいこと等。

(委員) 2つございまして、1つは33ページの次世代エネルギーパーク。当然、水素にはいろいろな作り方があってと思うんですが、どのように利用するかが難しいところではないかなと思ひまして。動物園ですが、動物に対して何か深く水素に関わるようなことを今後考えておられるか、また、どうするかなど何かお考えがあれば。また、動物園で燃料電池を使うということですが、何かメリットがあるのでしょうか。効率がいいとか、環境が良くなるだとか。

(事務局) 環境面はメリットになると思います。動物園では「エネルギーパーク構想」というのを策定しており、自然エネルギーを使った環境に配慮したテーマパーク型動物園にするべく現在検討中です。水素を利用するアイデアとして、スリランカゾウのナマリーとミリンダを、燃料電池で沸かしたお湯で洗ってあげたり、動物園隣の住宅展示場でハウスメーカーさんがエネファームをお使いになっているとのことなので、動物園に行った若い世代のお父さん・お母さん・子どもたちにエネファームが設置された住宅展示場を見ていただく、といったこともできればいいかと、現在、構想を温めているところでございます。

(会長) 動物にも使えて非常にメリットがあるんだというアイデアがたくさん出てくれば、それに越したことはないですね。今の規模だと、カピバラを温めるのものすごい量があるので、今の量では無理ですけど。現在そういった色んなアイデアが出ている段階ですので、もっといいアイデアがあれば教えて下さい。

(委員) もう1つ、31ページの純水素型の定置用燃料電池のところですが、たしかに純水素だとガスの改質が不要になりますが、逆に匂いを付けたり、また水素を直接充填する装置が必要となるので、必ずしも大幅に費用が軽減することはないと思うのですが、そこら辺の実情をお聞かせ願えればなと思います。

(委員) 北九州の水素タウンの担当をしておりますが、純水素型のメリットと、匂いをつけることについてのご質問ですね。純水素型にするメリットは、改質器が無いので立ち上がりが早くなることと、発電効率が高まるため、電気として取り出せる量が多くなることだと考えております。それを踏まえ、現状、北九州水素タウンにつきましては匂いを付けた上でパイプライン供給をするという高コストな水素供給をしておるんですが、付臭せず安全を担保しながら水素を安定供給していく方法を今、一生懸命検討しているところでございます。必ずしも付臭しなければ水素が供給できないということではないと思っておりますので、周南市では水素をより低コストで安全に供給できるようにしていきたいと考えております。

(会長) はい、よろしいですか。

(委員) 付臭しない水素も実証の中に含まれているということですね。

(会長) 他にいかがですか。

(委員) 先程の動物園のところで補足をしたいと思うんですけども。周南市は、山口県の水素のモデルタウン地区としてパイプラインによる水素ガス供給しておりましたが、その時の課題はお湯をどうするかということだったんです。結局、発電したお湯が使用されなかった場合、燃料電池を止めていました。その時は、たしか炭酸ガスの削減だとか効率化だとかという観点でやっておりましたので、たぶんそういう使い方をしていたと思います。動物園は、お湯のニーズが意外とあるのかなと思いますので、良いモデルになるんじゃないかと。以上です。

(会長) 他にいかがでしょうか。

(委員) ご参考までですけども、だいぶ昔ですけども、バンクーバーで燃料電池の熱利用ということですけども、ガソリンスタンドに大きな燃料電池を置いて

て、電気は電気として使うんですけれども、熱の方を車の洗車で使って、尚且つ面白いのが、ペットを洗う装置を置かまして。車を洗う、ペットも洗うということカナダのバンクーバーにある会社、水素を熱心にやっている会社がやりました。もう4、5年前なんで、今やっているかもわからないんですけれども。

(会長) 他はいかがでしょうか。

それでは、すみません。時間もだいぶ押してきましたので、2つ目のご説明をいただきたいと思います。

(2) 市場会議室を活用した水素学習事業について

(会長) 続きまして、市場会議室を活用した水素学習事業について事務局より説明をお願いします。

(事務局) はい。では資料3に基づきましてご説明を申し上げます。〔仮称〕周南市水素学習室の整備に向けてということで、近々に地方卸売市場敷地内にあります事務所の2階の会議室を改修して、今年度末で整備を終え来年度オープン予定でございます。改修の内容は、フロアの改修、あるいは窓枠の改修、あるいは若干暗いところもありまして電気系統等の改修、という形で改修を予定しているところでございます。大きく水素学習室の特徴として、「学習・展示・展望」3つのコンセプトを持って学習室を作りたいと思っているところでございます。市場風景展望となっておりますが、水素学習室から出たところがちょうど地方卸売市場の場内の絶景を見るのに非常にいい小スペースがありまして、そこで将来的には燃料電池フォークリフトが活躍しているというようなイメージのところのスペースもあるということです。

それから、裏をご覧ください。展示のストーリーあるいは展示パネル等での協力依頼ということでお示しをしていますが、この件につきましては、牧野会長を中心にたたき台を作成したところでございます。展示ストーリーの案は、例えば人類のエネルギーの変遷、水素とはどのようなものか・安全性はどうかというもの。特に先程檳浜地区自治会連合会長さんよりお話がありましたけれども、安全性についてももしっかり説明していきたいと思っております。また、国、山口県、周南市のこれまでの取り組み、そして未来予想図と大きく4つのコンセプトで展示をできたらいいなと考えているところでございます。この学習室オープンに併せて、全体的な学習重点施設、おそらく多くの団体が県内・市外・全国から視察に来られるということが想定されますので、ステーションを見ていただき、将来的に水素の定置用燃料電池を見ていただき、学習室で色々と詳しくご説明を申し上げ、フォークリフトの経過というような見学コースをたどっていただくというように思っております。展示パネルでの協力依頼で色々とご説明、ご披露させていただいているところでございますが、今後関係する企業の皆様方に一緒にそのパネルを作っていただきたいと思っておりますので、是非ご検討、ご

協力をいただけたらというふうに思っております。今後また改めて色々な連絡を取らせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。私の方からは以上です。

(会長) はい、ありがとうございました。今ご説明頂きました内容につきましてご質問、ご意見等ございませんでしょうか。よろしいですか。フォークリフトの利用というのは、今回周南市の水素利活用の本当に目玉になっておりますので、これを1つ学習室と結びつけてPRしていきたいと考えております。

(3) 今後のスケジュールについて

(会長) 続きまして、今後のスケジュールにつきまして事務局より説明をお願いします。

(事務局) はい。今後のスケジュールでございますが、レジュメにも示しております。12月17日13時30分から、周南市港町庁舎におきまして「水素サプライチェーンワーキンググループ」を開催いたします。このワーキンググループにつきましては、非公開とさせていただきますのでご了承願います。それから、来年3月18日13時30分から、会場は未定でございますけれども「第5回水素利活用協議会」を開催する予定にしております。また別途、開催のご案内をいたしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。これまで開催いたしましたワーキング、また、水素利活用計画の策定にあたって、まだまだ皆様方からご意見をいただきたいと思いますのでございます。ワーキングについては必要であればお集まりいただくことはあるかもしれません。また、水素利活用計画については個別にご相談をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。それとご案内でございますが、12月17日のワーキングにつきましては、トクヤマ様、出光様、東ソー様、岩谷様のご出席を予定しております。またご連絡をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(会長) はい、ありがとうございました。

それでは以上を持ちまして協議の方は全て終了いたします。今日言い足りなかったことや後で思いついたことがありましたら、事務局の方にメールでもお寄せいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、議長の任をおろさせていただきます、議事進行のを事務局にお返しいたします。

以上